

1. 本授業科目の基本情報			
講義名(コード)	TCM105A	TCM_表現研究 I_A	
科目名(コード)	TCM105	TCM_表現研究 I_A	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1年生
対象コース	CM1	単位数	2単位30
授業担当者	伊東かつみ	時間数	
成績評価教員	伊東かつみ	講義期間	秋期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄			講義

2. 本授業科目の概要	
到達目標・目的	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が自分とは異なる様々な主張を理解するために、様々な形式の文章から統合的に必要な情報を読み取れるようになる。
全体の内容と概要	日本語能力試験N1レベルの文字語彙と聴解を学び、日本語学習者として高いレベルの日本語表現理解について学ぶ。
授業時間外の学修	適宜宿題を出す。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識(期末試験点) 60%	自己管理能力(出席点) 30%	協調性・主体性・表現力(平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	聞き取のメモの仕方	●聞き取れない単語の推測 5w2hを使って分析●全体の意味の理解 能力診断アンケート
2	2-2. 通訳に必要な通訳技術 ●スキミングの仕方の理解●文の分解	●N1の資料をつかった聞き取り練習、場面を想像して、 ●場面のイメージ、メモの取り方、記号の決め方 ①理解、②記憶する ③ノートのととり方
3	2-2 通訳に必要な通訳技術 ●スキミングの仕方の理解●文の分解	●キーワードのを見つけ方 ●助詞の解説；自動詞と他動詞、をとが
4	助詞の練習	●にとでの用法 ● 助詞全般 練習
5	助詞の練習 2-3. 逐次通訳とは 逐次通訳のプロセス	●はとが の区別、 ●形容詞と形容動詞+名詞、中国語的日本語
6	(2) 訓練の前提となる基礎的な能力	●N1の資料をつかった聞き取り練習 ●を の特別な用法
7	逐次通訳1 2-4. 逐次通訳の前提となる能力強化 逐次通訳演習①シャドーイング	★シャドーイングの練習、 ペアで答え合わせの後 グループで結果を討論
8	逐次通訳演習2 ②トランスクリプション 聴き取り	★トランスクリプション プロセスを書き取る。文法の理解があいまいだった、聞いたことを忘れてしまったなど ノートに書き、統計を取る。グループで討論
9	逐次通訳演習2 ②トランスクリプション 聴き取り	★短期的な記憶力を強化する。 ★ラギング
10	逐次通訳演習3 ③ラギング ④リテンション、リプロダクション	★ペア練習、グループ練習、N1 聞き取り練習
11	逐次通訳演習4 ⑤パラフレージング ⑥クイックレスポンス 3-1. 医療倫理 3-2. 患者の権利	★短期的な記憶力を強化する。 ★ラギング ★リテンション・リプロダクション★パラフレージング ★クイックレスポンス
12	逐次通訳演習5 2-5. ノートテイキングの理論と練習	ノートテイキングの理論と練習、●N1の資料をつかったメモの取り方
13	テストの説明	後期のまとめ テストの練習
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	日本語能力試験 N1読解 必修パターン 聴解
参考文献・資料等	適宜プリント配布
備考	進捗は変更になることがあります。 水曜日3限